目的 テンペラ画は顔料を卵黄で伸ばしてゆくので、微生物災害を受けやすい。その根本的対策を検討中であるが、ここでは、テンペラ画に使用する顔料の中から20種をとり、その吸湿性と防黴力について報告する。

方法 顔料の吸湿性は、オノ報 (防菌防黴誌 Vol.7 No.5 (1979)) と同じく、塩類の過飽和溶液をいれたデシケータで湿度環境をとり、顔料の重量の増減から、平衡水分曲線を求めた。防黴力は、オノ報 (防菌防黴誌 Vol.7 No.4 (1979)) の分育菌の薬剤抵抗試験に準じる方法と、スライドガラスに顔料を塗布する方法とを行なった。また、発黴の表示に試料の表面色の色差測定を導入した。

結果 顔料の吸湿性は、カドミウム系、コバルト系と *Oxide of Chromium* は極めて少なく、有機顔料の *Prummy Red*, *Hooker's Green*, *Rose Violet* などはいちじりしかなかった。また *Yellow Ochre*, *Terre Verte*, *Raw Umber* など天然土は、それらの中位を占めた。

防黴力は、カドミウム系、コバルト系は強く、有機顔料、天然土は弱い傾向があったが供試菌の種類によっても差が認められた。